

9月23日(金) 私の授業第1室(623)

SAPL : M E D I A T E C

四天王寺国際仏教大学短期大学部 黒田真寸子, トム ベンダーガスト

SAPL (Self-Access Pair Learning) の名が示す通り, この教授法は, 学習者が教材を直接扱い, 学習活動の全てを, ペア単位で行う。教師は, 教材を伝統的方法で言うところの「教える」ことをせず, 学生は, ほぼ教師無しで学習する。この様な方法における教師の役割は以下の通りである。

エンジニア : 機器を常に良い状態で保管し, それを教室の適所に配置する。

アニメーター : どのペアも気持ち良く学習出来る様に, ペア間の問題を解決し, ペアの調整を適宜行う。不活発なペアを活発に活動させる。バックグラウンドミュージックの音量を調節する。

インストラクター : 何を学習するのか。
 どの様に学習するのか。
 どの様にお互いを訂正し合うのか。 } の3点を教える。

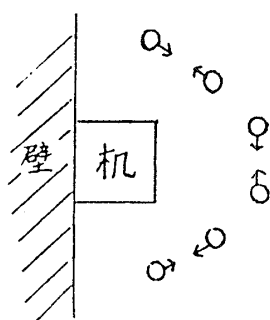
モニター : インストラクターとして教えた事柄を学生が正しく守っているかどうかをチェックする。

リングイスト : 発音指導をする。この時, 誤った発音をした学生を矯正するのでなく, そのパートナーに矯正方法を指導し, 次からその学生が同じ誤りをした場合に, パートナーが責任をもって矯正するように, 指示する。目標言語に関する質問に答える。

エバリュエーター : テストの結果を解釈し, 学生に自己のレベルを教える。

学生はスタディーステーションと呼ばれる場で, グループ学習をする。

(スタディーステーションの一例) 図の様に, 1つのスタディーステーションで



2組ないし3組のペアと一緒に学習する。学生は, 図の矢印の方向に向かい合って座る。机の上には, テープレコーダー (1台) と, それに接続したスピーカー (2台) を置く。この他, 教室全体に音楽を流す為のステレオセットがあることが望ましい。

9月23日(金) 私の授業第1室(623)

学習は、スタディーステーション毎に進められるので、1クラス36人のクラスでも、36人が一斉に同じことを学習するのでなく、1ステーション6人となれば、6ステーション、つまり、6クラス別々の授業が同時に1つの教室で進行するということになる。従って、能力別授業が可能になるし、教師が複数の外国語に精通している場合には、複数の外国語の授業を1つの教室で、同時進行させることが出来る。

この教授法を採用するには、人事面、予算面で学校側の協力を得なければならない。つまり、この教授法の理論に賛同し、教え方に習熟している教師を採用するという事。また必要な全ての機器を備えてもらうという事である。その為には、学校側に教授法を採用する意義を理解してもらうことが必要となる。

発表では、大小のスタディーステーションで学習するペアの種々の授業風景、また proficiency test としての speaking 及び listening test の採点の様子を解説を加えながら紹介する。